

やすだ のぼる  
**安田 登**  
 能楽師（下掛宝生流：ワキ方）  
 寺子屋 講師 （阿弥陀寺）  
 こどもおばけ合宿 講師 //

主著に『論語』『あわいの時代』『あわいの時代の『論語』ヒューマン2.0』  
 『能 650年続いた仕掛けとは』他多数。

# こまつたとき 親鳥 聖人



イラスト 中川 学

家族や親類が揃って、大人も子どもも一緒に遊ぶこととて、いまはどのくらいあるのでしょうか。

## いちじょう 地獄は一定すみかぞかし

むかしはお正月にみんなが集まると、さまざまな遊びをしました。福笑いや羽子板、そして双六など。それが人生ゲームのような盤（ボード）ゲームになり、そして今度はテレビ・ゲームなどの家庭用ゲーム機になり、みんな一緒に遊ぶなんてことはなくなりました。ちよつと残念です。お正月定番ゲームの中

でも「双六」にはさまざまな種類があり、人気です。

サイコロの目だけが頼りの、まったく頭を使わなくてもいいゲームなので、双六は大人と子どもとの境をなくします。小さな子どもが早く上がり、大人が「振り出しに戻る」とか「一回休み」などを繰り返して、いつまでも上がれずに、子どもに笑われるなんていうのも双六の面白さです。

白河天皇も「賀茂川と双六の目と比叡山の僧兵は自分ではどうしようもできない（賀茂川の水、双六の賽、山法師。これぞわが心になわぬもの）」と言ったほどです。しかし、古典に登場する双六は、サイコロの目だけでなく、戦略も大切になる、かなり賭博性の強いゲームです。しかし、その面白さにハマると、全財産を失ってしまうおそれもあり、何度も禁止令が出ました。

今年の大河ドラマ『光る君へ』の中にも登場するかも知れませんが、注意してご覧ください。

### ▼浄土双六

ちなみに『源氏物語』の双六もあります。

『源氏物語』の帖名と絵が書かれた双六で、振り出しは「紫式部」です。

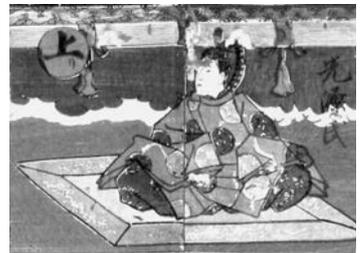


ここでサイコロを振ると、たとえば「二」が出ると、「紅梅」帖に飛びます。



「紅梅」には二、三、四、五の数字しか書かれておりません。「二」と「六」が出た場合は一回休みになります。

上がりは「光源氏」です。



ふつうの双六は、サイコロの数字に従って順番に進んでいきますが、この双六のように、出た数字によってどこに飛ぶかが決まる双六のことを「飛び双六」といいます。

この「飛び双六」の中には、阿弥陀寺のご門徒の方にはぜひ遊んでいただきたい双六があります。その名もずばり！「浄土双六」です。

室町時代にできたもので、江戸時代にとでも流行りました。

いろいろな種類がありますが、私が持っているもののひとつは、振り出しが「人生（にんしよ）」、すなわち人間です。ここで「南」「無」「阿」「弥」「陀」「仏」と六面に書か

れたサイコロを振ります（サイコロの文字は、違うものもあります）。



「南」が出たら一回休みですが、「無」が出たら八熱地獄に堕ちます。また、「陀」が出ると内院に行くことができ、次が上がりです。もし、「仏」が出たら一挙に阿弥陀様に飛んで上がりになります。



この双六をするときには浄土曼荼羅を掛けるのが本式です。

浄土曼荼羅とは、阿弥  
陀如来が住む西方極楽浄  
土の様子を描いたもので、  
これを掛け、その隣で浄  
土双六をしたそうです。  
そして、たとえば「八  
熱地獄」に落ちたら、そ  
こがどんな地獄であるか  
をお寺の方が説明してく  
れたとか。



三月の阿弥陀寺さんで  
の寺子屋、「精神科医と  
読む経典」では皆さまと  
この浄土双六で遊んでみ  
たいと思っています。

▼地獄は一定

浄土双六といっても双  
六ですから、内院(極楽)  
に行くか、地獄に行くか  
はサイコロの目によって  
決まります。すぐに往生

する方もいれば、いつま  
でも地獄巡りを繰り返す  
方もいます。

実はこの双六、トラン  
プの大貧民ゲームのよう  
に一度地獄に落ちるとな  
かなか抜け出せないの  
です。

地獄をぐるぐる回って  
いると、親鸞聖人の「地  
獄は一定すみかぞかし」  
という言葉思い出しま  
す。

親鸞聖人はおっしゃい  
ます。

「私は法然さんの教え  
を信じて念仏をしている  
けれども、念仏をすれば  
極楽浄土に往生できるの  
か、あるいは地獄に落ち  
るのは正直、まったく  
わからない。

でも、法然さんにだま  
されて地獄に落ちても後  
悔なんてしないよ。  
だってそうでしょ。

もし、私が自力で修行  
して成仏できるような人  
間だったら、そりゃあ後  
悔もするけど、どんなに  
努力をしたって、もとも  
と成仏なんてできるはず  
のない我が身。

地獄こそが我が住み家  
(地獄は一定すみかぞか  
し)だよ」  
原文も挙げておきま  
しょう。

念仏は、まことに、浄  
土にむまるるたねにてや  
はんべらん、また、地獄  
におつべき業にてやはん  
べるらん。惣じてもつて  
存知せざるなり。

たとひ、法然聖人にす  
かされまひらせて、念仏  
して地獄におちたりとも  
さらに後悔すべからずさ  
からう。

そのゆへは、自余の行  
もはげみて、仏になるべ  
かりける身が、念仏をま  
ふして地獄にもおちてさ  
からはばこそ、すかされ  
たてまつりてといふ後悔  
もさからはめ、いづれの  
行もおよびがたき身なれ  
ば、とても、地獄は一定  
すみかぞかし。

私たちは、心のどこか  
で「自分は地獄に落ちる  
ほどの罪は犯していない  
」と思っています。  
「成仏できると思っ

ていないけど、畜生道に  
落ちて、来世は猫ちゃん  
として生きるのなんかも  
いいかも」なんて思っ  
ている。

しかし、浄土双六をし  
ながら地獄に落ち、そし  
てどのような罪をした人  
がここに落ちたかをお寺  
のお坊さんたちに教えて  
もらう。そういうことを  
繰り返していると、自分  
がいかに罪深いか気づ  
きます。

親鸞聖人の「悪性さ  
らにやめがたし。ここ  
ろは蛇蝎のごとくなり。  
修善も雑毒なるゆえに  
虚仮の行とぞなづけた  
る」が身に沁みます。

蛇やサソリのような私  
の心。やめよう、やめよ  
うと思っても悪性をやめ  
ることはできない。

また、善いことや成仏  
のための修行をしても、  
その心の奥にはわがまま  
や煩惱が渦巻いています。  
神仏に手を合わせていて  
も、お願いしているのは  
自分のことや家族や仲の  
いい人のこと。  
そんなものは本当の信

心でもないし、修行でも  
ない。

それを親鸞聖人は「虚  
仮の行」、いつわりの修  
行だ、とおっしゃいます。

だから、「地獄は一定  
すみかぞかし」なのです。  
そして、だからこそ「こ  
うなったら念仏でもして  
みるか」になるし、「念  
仏するしかないよね」と  
もなるのです。

「本当はあれもこれも  
したいけど、なかなかで  
きない」という人がいま  
す。そういう人はだいた  
い「この問題が解決すれ  
ば始めることができます  
だけ」といいます。し  
かし、その問題が解決す  
ると、今度は「あの問題  
が解決すれば」となりま  
す。

目の前にある信号が全  
部、青にならなければ道  
を渡らないような人です。  
「念仏をすれば、絶対に  
極楽に往生できる」と  
いう確信がなければ念仏  
なんてしない、という人  
も同じです。念仏しても  
往生できるかどうかはわ  
からないと親鸞聖人も

おっしゃっています。  
それならまずは一步を  
踏み出す。  
お念仏だけでなく、人  
生でもね。



『論語』は不安の処方箋  
著者：安田登  
解説：内田樹

以前に出ていた「身体  
感覚で『論語』を読み直  
す。」の再文庫化です。

二五〇〇年以上も前に  
生きた孔子らの言行録  
『論語』。

孔子の時代の文字を見  
ていくと、この時代は  
「心」という概念ができ  
て間もなくの時代である  
ことに気づきます。そこ  
から、本書では「心」の  
誕生と「命」に挑む人間  
の姿を考えてゆきます。  
孔子は「四十にして惑  
わず」とは言わなかった。  
『論語』はいっ読ん  
でも気持ちがいい!